

知床国有林伐採問題に関する年表

満 田 久 義

年	月. 日	主 体	内 容
大正 3～8	12.	開 拓 民	福島県より60戸移住
14	9.		バツタの被害により離農
昭和 6		国	森林自然法
13～14		開 拓 民	38戸移住（昭和20年まで13戸離農）離農原因は不明
24～30		開 拓 民	主に宮城県より45戸（42年に全戸離農）
28			冷害凶作
34		開 拓 民	交通、医療、教育などの劣悪な生活条件により離農開始
39		国	知床国立公園に指定（観光業者、土地業者に注目される）
41		斜 里 町	残っていた24戸を斜里町市街地に集団移住させる
43		土地業者	一部離農地が土地業者に買われる
44		斜 里 町	「特別措置法」制定（町が北海道庁に陳情） 農民の負債は、長期低利融資により年賦が可能になった
46	5.	国	環境庁発足
47		加藤登紀子	「知床旅情」大流行 知床ブーム 観光客75万人
	6.	国	田中角栄 「日本列島改造論」 日本各地で地価高騰はじまる
	11.	斜 里 町	町職員プロジェクトで該当地を第3種から2種へ改正案
	12.	国	国立公園計画の見直し開始（第2・3種を格上げ審議）
48	9.	斜 里 町	土地ブームは知床まで広がり、斜里町は離農者に対し土地業者に旧開拓地を売らないように指導
48	12.	斜 里 町	斜里町は、今まで第3種地域で国有林の伐採可能な国立公園内の林地のランクを第2種に格上げするよう林野庁に意見陳情（申請通らず）
		離 農 者	離農者は、旧開拓地を町が買い上げるよう要請、しかし町は財源がないのでこれが国有地であることから環境庁を通じて国の買い上げを要請。しかし、国はここが第3種地域であることを理由に拒否。
		土地業者	町土地開発公社が公園計画のため先行取得（土地買い取り開始）
49	9. 14	斜 里 町	知床憲章制定す
50	9.	離 農 者	離農者8名は、112haの一括買い上げを町に請願
	10.	北 海 道 環 境 庁	道の係官及び環境庁は、現地協議会にて「第1種地域化は原生自然が対象、道も財政事情から買い上げは困難」と回答
52	1. 16	報道機関	朝日新聞「天声人語」で英国ナショナルトラストを紹介する
	2. 27	斜 里 町	新年度政策発表記者会見で「全国の善意の資金による買い取り運動（しれとこ100平方メートル運動）」を発表
	2. 28	報道機関	北海道新聞 夕刊「8000円で自然を買って乱開発に歯止め。離農地跡支援金で植樹」

*年表中の「北海道連」は北海道自然保護連合を、「N. T」はナショナルトラストを、「道協会」は北海道自然保護協会を、「知床協会」は知床自然保護協会を示す。

年	月. 日	主 体	内 容
昭和 52	3. 3	斜 里 町	100平方メートル運動受付開始
	3. 20	報道機関	朝日新聞 全国に同運動を紹介
	3. 24	斜 里 町	運動参加者, 第1号受付
	7. 11	報道機関	朝日新聞(月曜ルポ欄)「精神的地主に反響続々。寄付1000万円超える。開拓地跡に感謝をこめた表示板。」
53	1.	斜 里 町	町自然景観設置条例及び土地保全基金条例を制定
54	11. 14	報道機関	朝日新聞 天声人語がはじめて知床の運動を取り上げる 3月現在で3176人の賛同者から3380万円が集まり既に目標額の3分の1を超えている 「120haの保護に成功すれば第2, 第3の100平方メートル運動が実現するだろう。その期待をこめて, あなたも知床で緑の夢を買いませんか」と天声人語。これにより11月の参加者が激増
54	12. 28	報道機関	朝日新聞 斜里町役場から「今なお参加者が殺到しています」という便りがあった。4月以後, 約1700人の参加者があり1815万円が集まったと報道。 「これだけ多くの人の運動を支えてくれたのは, 単なる夢だけではない日本人の心の中にある自然破壊への恐れ, 自然の営みに対する恐れが賛同者を爆発的に増やしているのではあるまいか。100平方メートル運動は, いわば自然の神の怒り鎮めるための祀りでもある」
55	8.	斜 里 町	自然教室第1回開始
	10. 18	斜 里 町	1) 目標120ha分の土地, 植林事業費9600万円を達成, 運動参加者は, 外国人を含めて9397人 2) 年次計画をたて残りすべての民有地28ha買い取るために2億2560万円を基金目標と発表
	10. 30	報道機関	朝日新聞 天声人語で同運動を紹介 月別の参加者は100人を割っていたが11月の参加者は, 834人となる
	2. 28	報道機関	朝日新聞 天声人語で再度, 運動を紹介 1月の参加者は1223人を記録
57	3. 31	営 林 署	『網走地区第4 施業計画』(昭和56~65年) 発案 施業内容 ①伐採対象地域/1100ha。林道を前提とした施業が可能な地域を対象 ②伐採方法/単木伐採で伐採率は21%。風致の維持等を考慮した通常の伐採 ③伐採量53000立方メートル ④集材方法/トラクター集材。林道および作業道を設置し, 集材搬出を行なう。 ⑤更新方法/天然下種更新を主体とするが, 必要により植込を行なう。
		斜 里 町	斜里町は同意せず
	5. 29	斜 里 町	第4次施業計画に対する反対への要望
	9. 16	営 林 署	北見営林署は, 第4次施業計画の中止, 知床公園内の施業を60年度まで見合わせる旨公表
		保護団体 斜 里 町	地元の自然保護団体「青い海と緑を守る会」(後に知床自然保護協会)及び斜里町第4次施業計画に再度反対
	9. 17	営 林 署	知床100平方メートル運動参加者, 地元の自然保護団体, 町当局等の計画反対に, 北見営林署は「60年度までは見合わせる。地元の意見を聞きながら再検討する」ことを発表する
	9. 25	保護団体	100平方メートル運動5周年記念シンポジウム 「日本におけるナショナル・トラストを考える」がテーマ

年	月. 日	主 体	内 容
昭和 57	9. 25	斜 里 町	ウトロ漁村センターにて、道内外から 300 人が参加宣言。ナショナル・トラスト全国市民連合を結成する。(以後、同連合を N. T. と略す)
58	2. 5	保護団体	東京赤坂に N. T. 全国の会を結成。 「全国の会全国大会」を開催
59	6. 26	斜 里 町 営 林 署	「第 5 次施業計画樹立にかかわる意見書」を町から 営林署へ提出。「今後とも伐採計画を中止する」よう要望。署長より内容修正の申し入れ
59	6. 29	斜 里 町	前記意見書を修正し提出。「今後の計画は必ず事前協議されたく 要望する」
60	5～6	営 林 署	真鯉国有林地にてヘリ集材試験 (日本農林ヘリコプター) 斜里営林支局から町へ協力の申し入れ 180ha, 300m ³ 1～2 本/ha
	6.	参 議 院	参議院環境特別委員会は、参考人として藤谷豊、木原啓吉、外山八郎に出席を要請 内外の N. T. 運動の状況、活動の意識などを聴取 「N. T. 運動の発展と自然環境の保全を推進するために 3 つの決議案を承認」
	9. 1	斜 里 町	旧開拓地の所有地を全て取得 (355 ha 75.3 %達成)、残る転売された分も買収を継続
	11. 13	営 林 署	第 5 次施業計画案について、北見営林署から町へ (町長のみ?) 事前説明 「昭和 61～70 年, 1700ha, 20,000m ³ , 5～7 本/ha, 伐採, ヘリ集材」
	11. 20	営 林 署	第 5 次網走施業計画案 (昭和 61～70 年度) 地元説明 (網走市民会館にて) 署コメント 地元との意志の疎通を図りたい 自然景観保全を十分行い、林地の活力維持につとめる 町コメント 営林署の経営問題や計画緩和から絶対やめろとは言えないが基本的には切らないでほしい
61	1. 7	営 林 署	『網走地区第 5 次施業計画』(昭和 61～70 年) を発表 施業内容 ①伐採対象面積/1700ha。ヘリコプター集材を前提とした施業が可能な地域を対象 ②伐採方法/単木伐採で伐採率は平均 6～7 %。風致の維持等を考慮した特別に弱度の択抜 ③伐採量/20000 立方メートル。10 年間に約 10000 本を伐採。ヘクタールあたり本数 6～7 本。 ④更新方法/必要に応じシズナラの人工下種などにより更新促進を図る。 初年度 <61 年度> 施業内容 ①知床横断道路のウトロ側の約 187ha から 844 本択伐 (択伐率 5.4%)
		斜 里 町	100 平方メートル推進本部部長、斜里町長でもある 船津氏はこれを容認
	1. 28	営 林 署	「青い海と緑を守る会」が林野庁長官、北見営林支局長、斜里営林署長あてに計画 (知床国立公園内国有林伐採計画) の見直しの要望書を提出 (61 年 4 月に知床自然保護協会と改称 午来昌会長)
	1. 31	営 林 署	道の『地域施業計画審議会』で計画を正式承認 (環境庁及び町長等の同意ありと報告……公式文書はない) 北見市にて 100 平方メートル運動・推進本部＝船津英雄斜里町長コメント 「伐採する量も減り、集材にヘリを使うということで自然破壊にはならない故に伐採を容認」
		斜 里 町	前町長の藤谷氏、北海道新聞「朝の食卓」で提言
	3. 4	保護団体	N. T 関東支部役員会
		斜 里 町	船津斜里町長の説明 (知床のつどいにて) が反響をおこす

年	月. 日	主 体	内 容
昭和 61	4. 3	畑 氏	畑正憲氏「ながぐつコンサート」で伐採反対を町民に呼び掛け (斜里町公民館)
	4. 21～26	畑 氏 報道機関	畑氏, 朝日新聞で伐採反対を連載(しごとの周辺) 朝日新聞 現地ルポ 掲載
	4. 24	営 林 署	支局『第5次施業計画』について 61年度業務計画及び知床国有林の森林施業を公表(9月伐採開始)
	4. 25	報道機関	「ペースケ」(朝日新聞 夕刊マンガ)が伐採危機を訴える 4月下旬から5月初めにかけて「朝日新聞」紙上で畑氏の連載コラム「しごとの周辺」で伐採計画を痛烈に批判。
	4. 28	世 論	新聞投稿が出始める。
	6. 1	保護団体	「しれとこ通信」—N. Tが発行している機関誌 「運動地に隣接する国有林を伐採することは基本的には反対。しかし, 林野庁が出した条件, 町の将来, 環境庁が承認したことなどを考えると 止むを得ない」
	6. 12	営 林 署	61年度計画が林野庁から町に提示(186ha, 844本, 1787m ²) 選木伐採量 発表(正式文書なし)
	7. 9	保護団体	知床自然保護協会が61年度計画に反対する全国的な行動を展開すること を決定 (営林署・町などに伐採中止を求める要望書提出)
	7. 10	営 林 署	営林署主催の 今年度伐採予定地の 現地説明会(100平方メートル運動地 にて) 知床協会の午来氏, ウトロの漁協の人々, マスコミ等, 約30人らが対象 木視察
	7. 20	保護団体	知床協会, 道自然保護協会等23団体が加盟する北海道自然保護連合〈以 下道連合 寺島一男代表代行〉が伐採予定地調査隊を編成し現地入り
	7. 22	保護団体	北海道連 「伐採計画の廃止を求める要望書」を林野庁, 環境庁, 知事, 斜里町に提出。
	7. 25～27	保護団体	全国自然保護大会, 下北で知床アピール
	7. 27	保護団体	知床原生林を守るシンポジウム案内を各方面に発送
	7. 28～30	自然災害	知床半島先端で山火事。約4ha焼失30日で鎮火
	7. 29	保護団体	全国にシンポジウム案内発送
	7. 30	保護団体	会員にシンポジウム案内発送
	7. 31～8. 9	保護団体	第7回知床自然教室開催 教室内で伐採についての調査実施
	8. 4	保護団体	『知床原生林を守る』記者会見
	8. 8	保護団体	道連合主催 『知床原生林伐採に反対する市民の集い』が札幌で開催
	8. 15	保護団体 営 林 署	道連合 シンポジウム開催にあたり打ち合せ 「9月早々にも伐採着手」を発表
	8. 16	保護団体	『知床原生林を守るシンポジウム』斜里町中学校にて, 道自然協会, 北 道合, (財)日本保護協会, 斜里町郷土史研究連盟, N. Tを進める全国 の会ムツゴロウと動物王国, 日本野鳥の会, 世界野性生物基金日本委員 会などが共催。8団体約200人が参加 以後 各地(札幌, 東京, 大阪等)で反対集会シンポジウムが開かれる。 又, マスコミが盛んにこの問題を取り上げ世論が高まる。
		保護団体	北海道連(木内氏, 田中氏), 船津町長と面談

年	月 日	主 体	内 容
昭和 61	8. 17	保護団体	北海道連とシンポジウム参加者（約 200 人の希望者のうち50人が伐採予定地へ入る。）
	8. 18	営 林 署 保護団体	北見営林署と伐採反対派との第1 回交渉がもたれる 保護団体側出席者：木内正敏（日本自然保護協会主任研究員）、三浦二郎（道協会副会長）、寺島一男（道連合代表代行）、午来昌（知床自然保護協会会長）、宇野裕之（知床動物研究グループ会員）、田中明子（道連合事務局長） 営林署側出席者：武田憲明（業務部長）、山本一男（調査官）、古瀬茂（計画課長） 保護団体：「森林施業を否定しているのではなく知床という豊かな自然がある国有林を国民の合意が得られるまで伐採すべきでない。」 営林支局：「伐採で自然が壊されることはない。9 月初めにも伐採を着手したい。」 （結論）平行線のまま物別れ
	8. 19	斜 里 町	斜里町議会、北海道連からの『伐採計画の中止に関する陳情』を不採択
	8. 20	保護団体	北海道連が「運動の指針」発送
	8. 24	木材協会	『施業を考える市民の集い』北見市にて北見木材協会等、伐採促進派開催。全林野も伐採を認める。
	8. 22～24	保護団体	北海道連と畑氏、斜里町にて打ち合せ
	8. 25	保護団体	北海道連『知床募金』口座開設。伐採予定木の買取計画
	8. 26	保護団体	日本自然保護協会の沼田理事長、林野庁と会談 知床の伐採計画は、亜高山帯の造林に難しく、生態的思想が足りないなどと学術的な点から、林野庁の再考を促す陳情を行なう
	8. 28	保護団体	北海道連、100万人署名集めて、記者会見 支局長、道協会に来礼。会長と理事が会見 協会側 「動物保護のための調査などを主張。」 支局側 「環境庁の承認は得ている。」 （結論）平行線に終わる
	8. 28	営 林 署	斜里町内各団体へ「地元説明会」。役場会議室にて
	8. 30	保護団体	北海道連『知床に集まろう』記者会見。「あくまで伐採を強行するなら実力行使する」と全国呼び掛ける 営林署、道協会に譲歩案提示、同時に北海道連、知床自然協会にも、道協会より意向打診 要旨 ①伐採対象地を含め約1000haの永久保存地区を残す ②100平方メートル運動地隣接地は伐採しない ③今年から科学的調査に着手し、来年の伐採はその結果をふまえ、関係者と話し合って決める ④今年の伐採は、その状況を調査し、関係者に説明する
	9. 1	営 林 署 保護団体	第2 回交渉（5 時間） 北海道連、知床協会、畑氏など参加 ○伐採強行は、1 週間延期 ○営林署から、譲歩案提示 ①100平方メートル運動地域から100m、幅100ha程度の区域を無施業地区とする ②比較的原生状態に維持されている森林を主体に一部計画変更も含め1000ha程度施業を見合わせ、次の施業計画で遺伝子保存林として考えていきたい ③今年は動物と森林調査施業の関係について専門家による伐採状況等、予備調査をし、来年以降、森林施業による野生動物への影響を調査したい （反対側はこの妥協案を検討。絶対、飲むことはできない内容であると結論、この間、アイヌの人たちも抗議行動を起こすことを決定）
	9. 2	保護団体	道協会の拡大常務理事会で、営林署側の譲歩案を検討 営林署側の態度を一応評価し、交渉の中で解決を図っていく

年	月 日	主 体	内 容
昭和 61	9. 3	報道機関	朝日論壇 投稿（北海道連事務局長） 『伐採されたら基金の返金を求める』旨提示
	9. 4	保護団体	100平方メートル運動関東・関西支部の連盟より 運動推進本部長 である 斜里町長 船津氏へ『支局に伐採の中止を求め、運動地を伐採関係で使用 させないで下さい』という要望書を提出
	9. 6	保護団体	北海道連の緊急代表者会議を開く（札幌にて） 道協会に示された4条件と北海道連に示された3条件に差があるため、実 質的な内容の議論にいたらず、知床の森林を守ることを国民的課題に高 めていくことを提示
	9. 8	営 林 署 保護団体	第3回交渉（北見市にて） 営林署、北海道連、道協会、知床協会から出席 支局側は伐採するという方針、妥協案自体は変えず。取り合えず、伐採 してみたらその結果を調べる 保護団体側は、事前調査を行なうべき、支局の譲歩案拒否 （結論）交渉決裂。次週持ち越し
	9. 9	ア イ ヌ	アイヌ精神による知床伐採反対運動の会（事務局長 豊岡征則） ○抗議行動に出る ○カムイノミ（自然〈神々〉への祈り） ○シマフクロウと対話するユーカラ（詩曲）の朗読、演奏 ○ケンウタケの儀式（非常事態の時に行なわれる儀式）
		国 会	参議院決算委員会で林野庁長官に伐採問題についての姿勢を質問 久保田真苗氏（社）の質問に答えて「理解を得よう努力したい」
	9. 10	保護団体	N. T 全国の会常任幹事会にて 伐採が強行された場合 知床 100 平方メートル運動の今後の展開に大き なマイナスが生じると懸念の意を示す
		保護団体	北海道連（田中氏）、午来氏、日本自然保護連合、畑氏と打ち合せ（東京に て）
	9. 11	保護団体	道協会は緊急会議を開き、異例の採決をもって妥協案を受け入れる （支局の3提案）
	9. 12	報道機関	『道協会が譲歩案受け入れ、営林支局に通知』と報道 北海道連、東京で国会議員、林野庁、文化庁、報道関係者との面談
	9. 13	保護団体	道協会が営林署と報道機関にクレームをつけ、新聞は12日付の記事を否 定 （条件闘争の間に了解の差異があったこと、運動の展望についての見解 の差があったため） 北海道連が『知床国立公園森林帯の天然記念物仮指定を求める要望書』を 道知事と道教委に発送、記者会見
	9. 14	保護団体	北海道連がウトロにて キャンプ参加者に現状報告 100平方メートル運動推進本部、役員会、伐採問題について協議 N. T 全国の会木原幹事長より反対の要望書を町長に提出 『運動推進の立場で筋を通してほしい』
		斜 里 町	船津町長、推進本部の役員、午来氏知床協会会長と交渉の前日、事前の 動物調査のため、伐採を一年間に凍結するという方針を提示
	9. 15	斜 里 町 保護団体	船津町長 伐採一年間凍結を正式発表 北海道連（八木氏）緊急代表者会議 営林署の条件はのめない。まず調査を先行すべきと主張 道協会も同一歩調を取ることを確認
	9. 16	保護団体	知床協会会長（午来氏）から町長へ『凍結調査先行等』要請
	9. 17	営 林 署 保護団体	第4回交渉（10分だけ） 町長欠席 営林署の妥協案は受け入れられないと北海道連が発言 営林署は、「上司に伝える」と一言のみ

年	月 日	主 体	内 容
昭和 61	9. 18	斜 里 町	船津町長 「伐採を一年間凍結してもらいたいと正式に発表した覚えはない」と発言
	9. 19	保護団体	道協会 伐採凍結を求める決議し、妥協案の受け入れを翻す
		斜 里 町	町議会 全員協議会を開き、伐採問題を協議
		環 境 庁	町長が議会に調停を一任
		北 海 道	環境庁長官が林野庁に慎重な配慮を要望 道文化財保護審議会、天然記念物について道教委に正式な申請書を提出 するよう指導
	9. 20	斜 里 町 保護団体 営 林 署	船津町長は、営林署に対し『伐採の一時保留』を申し入れ 午前……町長から営林署と保護団体へ「凍結、調査」の調停案提示 営林署 拒否 午後……町長から営林署・保護団体に再提示「本年分は極力削減・来年以降は調査結果により決定」 営林署は「同意」、保護団体は「持ち帰り」 〔町長から営林署・北道連への調停案〕 ①知床の天然林を維持するよう努力する ②直ちに伐採区域の動物生息調査を開始し、来年以降の施業はその結果に基づいて計画する ③今年度の伐採は、知床 100 平方メートル運動地周辺を残し、出来るだけ削減する ④国道334号（知床横断道路）以東の伐採については十分に調査結果を考慮し斜里町と協議する
	9. 21	保護団体 斜 里 町	保護団体から町長へ 調停案拒否 知床五湖に近い100平方メートル運動地で第12回記念植樹祭 町長から経過説明に対して、非難集中 関東・関西支部が伐採反対アピール（運動参加者220人） 畑氏「伐採を強行すれば 差し止めの訴訟を起こす」
	9. 22	保護団体	知床を守る会 （畑氏代表）警告電報を北見営林署支局長あてに送る
	9. 25	斜 里 町 保護団体	町議会で保護団体から出された『伐採凍結陳情』を不採択 知床協会（午来会長） 釧路湿原の国立公園化構想めぐり、釧路入りした自然環境保全審議会に『知床国有林伐採計画の中止を求める要望書』提出
	9. 27	保護団体	道協会会長が上京し、日本自然保護協会とともに、林野庁・環境庁訪れ、伐採一時凍結を申し入れ 又、自然保護議員連盟の元環境庁長官 原文兵衛氏らにも要請
	10. 11	共 産 党	笠原、児玉国会議員（共産党）が現地を視察し、支局に慎重な科学的調査をすべきと申し入れ
	0. 6	首 相	中曽根首相発言「慎重に、地元と話し合いに期待」と参議院予算委員会で村上委員の質問に対して、答弁
	10. 4～5	保護団体	N. T 全国の会『知床国有林の伐採を許さない 関東地区・関西地区大集会』（東京・大阪）
	10. 8	環 境 庁 農林水産省	稲村環境庁長官と加藤農林水産大臣のトップ会談 稲村環境庁長官「知床の森の伐採に反対する世論の高まりに理解」 加藤農林水産大臣「環境庁の気持ちは十分考慮しなければならない」と発言
	10. 8	保護団体	N. T 全国の会 第4回大会
	10. 15	林 野 庁	林野庁 年内伐採断念
	10. 17	農林水産省	加藤農林水産大臣 記者会見で「来年2月頃までをメドにして現地の動物調査を行なう。その後の対応は、調査結果をみて決める」 林野庁（北見営林署） 調査の細目を発表 （期間）・10月下旬～来年2月まで （目的）・動物生息状況；シマフクロウ、クマゲラ、オジロワシ

年	月 日	主 体	内 容
昭和 61	10. 17	農林水産省	天然記念物三種、営巣及び生息確認のため (方法) ①伐採予定の全森林分を対象にして、中、大径木について営巣の有無の確認 ②エサ場の有無の確認 ③鳴声による生息の確認 ④聞き取りによる生息状況 ⑤林相と生息環境の関係 なお、知床横断道路から、東側全域については、昭和62、63年に調査することとなるが、結局、調査入りは12月。調査責任者は、東三郎氏（北海道大農学部教授）
	10. 22	環 境 庁	稲村環境庁長官が伐採予定地を視察（国立公園指定作業が進んでいる釧路湿原とともに）
		保護団体	北海道連伐採反対キャンプ解散
	10. 23	北 海 道	第3回定例議会本会議 昌山博議員（自民）が一般質問で取り上げ「知事は、2月、環境庁国立公園事務所に対し『伐採計画に異存はないと回答しているが、その真意はどうか』という質問したのに対して、横路知事は、 ①国立公園内施業基準に比べ7%以下と低い ②野生鳥獣の営巣地域を伐採しない ③鳥獣繁殖期をさける ④木材はヘリコプター搬出する など自然破壊には、それなりの配慮がされていると答え、さらに、調査が実施されることを望みその結果を関係者で話し合い、問題を円満に解決するように望むと答えた
	10. 30	斜 里 町	町から植樹祭への参加者に経過報告。しかし、返却される（ハガキ50件、手紙42件、書留32件、計124件）
	11. 23～12	保護団体	宝塚第一病院及び富士銀行桜橋支店にて「シマフクロウ展」（N. T全国の会）
	12. 17	営 林 署	営林署からの調査依頼に、「短期間の調査では何もわからない」と次々と断られた末、ようやく、調査メンバーが決まる。砂防工学の東三郎北大教授をリーダーに5人。道森林技術センターに調査委託
	12. 18	営 林 署	営林署から北大東教授を委員長とする現地調査スタッフ発表
	1. 12～14	道 森 林 センター	第一回調査を開始し、2月終了予定であったが、調査団の要請で3月中旬まで延期調査となった
	1. 12	道 森 林 センター	営林署職員などを加えた約20人の調査団が現地入り。3日間調査する。クマゲラの巣穴を見つける。東教授は「このあと2～3回調査を行なう」と発表
	1. 20	保護団体	『知床国立公園内国有林伐採計画にかかわる調査についての質問状』北海道連より調査メンバーに送付
	1. 28	保護団体	北海道連、営林署の調査団に対して批判。林野庁・環境庁・文化庁にアピール
	2. 9	保護団体	北海道連が北海道知事立候補予定者に公開質問状送付
		市民団体	『知床を考える釧路市民のつどい』開催
	2. 21	営 林 署	営林署から調査延期発表（3月中旬まで）
	2. 24	保護団体	第1回知床見学ツアー
	2. 27～28	市民団体	市民グループから各政党に100平方メートル運動の証書寄贈（グループ知床 宝屋代表）
	3. 3	自 民 党	中曽根自民党総裁退任
		営 林 署	年度内伐採を断念

年	月 日	主 体	内 容
昭和 62	3. 4	林 野 庁	林野庁が年度内伐採の断念を表明
	3. 7	市民団体	『知床の森林考えるつどい』東京にて、市民の会主催。流水ロック 「しれとこのつどい」大阪にて、N. T 関西支部主催
	3. 8	伐採推進派	『択伐を進める市民集会』北見市にて、木材協会、全林野などの主催
	3. 10	保護団体	北海道連が環境庁に7万名分の反対署名を手渡す
	3. 11	保護団体	北海道連が林野庁に反対署名 7万580名分を手渡す
	3. 8～13	営 林 署	第4回調査（最終調査）
	3.13～14	保護団体	第2回知床見学ツアー
	3. 15	営 林 署	『北見営林支局調査』の調査員に対する公開質問状の回答受理
	3. 16	営 林 署	道新壇論で北見営林支局長、きわめて弱度の伐採で、自然保護林も設定、 木材は生活に不可欠であり、「保存より保全」のために択伐することを 表明
		保護団体	「知床伐採問題について」知事候補に質問状（松浦氏肯定・横路氏慎重 ・山辺氏反対）
	3. 19	保護団体	『知床のつどい』N. T 関東支部主催
	3. 20	営 林 署	年度内、伐採はないと発表
	3. 23	伐採推進派	択伐推進派意見書を津別町、滝ノ上、生田、留辺菜、遠軽町など5町議 会が営林署へ提出
	3.28～29	保護団体	N. T 第3回天神崎の自然に学ぶ集い（48名参加）。テレホンカード（シ マフクロウ）作成
	3. 30	道 森 林 センター	鳥獣報告書を道森林技術センターが営林署に提出 （活性化になる伐採推進の内容）
	4. 2	ア イ ヌ	豊岡征則ら、アイヌの代表4人が国連で知床保護を訴える
	4. 4	木材協会 斜 里 町	『伐採推進斜里町民集会』斜里にて、木材協会、全林野など主催、その 際、船津町長「躊躇せず施策すべき」と発言
	4. 6	林 野 庁	林野庁、買い取りには応じぬ。「立ち木は売らぬ」と発表
	4. 7	林 野 庁	林業白書で林野庁は知床伐採の正当性を強調
	4. 10	報道機関	『林野庁伐採強行の方針』を毎日新聞報道 翌日、各紙掲載
	4. 11	保護団体	北海道連が強行伐採の阻止にむけた現地結集を全国に呼び掛け
	4. 12	ア イ ヌ	アイヌ代表が国連に要請
	4. 13	北 海 道 営 林 署	北海道知事選挙横路氏 再選 「14日 午前8時30分から伐採着手」を発表（地区 240ha 530本 択 伐）
		林 野 庁	林野庁「伐採代案」を発表（伐採を縮小し、国立公園内34000haを永久保存）
	4. 13	林 野 庁	午後 統一地方前半の知事選挙の開票終了直後、林野庁は「動物調査の 結果、問題ないと判明したので、伐採規模を3分の2に縮小して14日か ら伐採に着手する」と発表
	4. 13	保護団体	北海道連の呼びかけで全国から現地反対行動に集結
		ウ ト ロ 住 民	ウトロ地区住民「択伐延期を求める声明」を発表 （ウトロ青年同志会ほか約100名） ・環境庁、営林署、町に提出
		保護団体	抗議文、声明発表（日本自然保護協会・日本野鳥の会・世界野生生物基

年	月 日	主 催	内 容
昭和 62	4. 13	保護団体	金・100平方メートル運動関東、関西支部) 環境庁, 営林署, 町に提出 実力阻止の構えに対して機動隊現地入り
	4. 14	営 林 署	予定の844本を530本に縮小伐採着手 午前10時05分チェンソーによって伐採開始
		保護団体	現地抗議集会。チップコ行動をする 伐採強行にたいする抗議声明
	4. 16	保護団体	北海道『知床国立公園立木買い取り運動』を開始
	4. 16～17	保護団体	知床伐採地調査
	4. 17～23	営 林 署	ヘリ集材開始 素伐本数約600本の搬出の終了 4. 14は80本, 4. 15は530本, 4. 16は170本を伐採
	4. 21	斜 里 町	町長選挙告示 (現職 船津氏 対 前知床自然保護協会会長 午来氏)
	4. 24～26	道 森 林 センター	B地区鳥獣調査開始 (790ha 対象区域) 道森林技術センターの前回メンバー現地入り
	4. 24	道 森 林 センター	調査団早朝から岩尾別川流域にて調査に着手
	4. 26	斜 里 町	町長選挙 投票 午来氏当選 (「保護派の勝利」) 午来氏 5342票 船津氏 4822票 白票の多くは全林野, 営林署の関係者
	4. 28	環 境 庁	稲村環境庁長官 閣僚会議後の記者会見で午来氏の当選について「売上 税にしても, 自然保護にしても世論を無視しては, 選挙に勝てないとい う教訓を残した」と発言 加藤農林水産大臣「午来氏の勝因は伐採が一つの要因」と認める
	4. 29	保護団体	伐採法要 (京都; 法然院にて)
	4. 30	保護団体	『知床の森を考える市民の会』(家屋秀樹代表約300人) 東京にて市民集会を開く
	5. 1	斜 里 町	午来氏 町長に就任
	5. 2～5. 5	保護団体	北海道 知床伐採跡地調査
	5. 6	営 林 署	伐採入札
	5. 16～17	保護団体	第4回ナショナルトラスト講座 (大阪府立野外総合センター, 能勢町)
	5. 21	斜 里 町	午来町長 斜里営林支局を訪れ就任の挨拶 伐採問題について, 角館盛雄支局長と意見交換 「B地区についてじっくり時間をかけて調査してほしい。絶対に守れと いうのではなく林業関係者のためにも」
	5. 22	林 野 庁	林野庁 衆議院環境委員会で「町と合意を前提とした伐採計画であるこ とから伐採反対派の町長の下では今後の伐採は困難になり, 計画自体を 根本的に見なおさざるを得ない」と認める
	5. 26	農林水産省 営 林 署	農水相が林野庁の答弁を否定 支局長が「地元の意向を無視して伐採しない。十分に話しあう計画に変 更はない」
	5. 29	北 海 道	100平方メートル運動庁内推進委員会発足
	5. 30～6. 1	保護団体	「4. 14を忘れない東京集会」(東京, 四谷公会堂にて)
	6. 1	日 弁 連	日本弁護士連合会 現地調査

年	月 日	主 体	内 容
昭和 62	6. 1	日 弁 連	環境保全委員会で知床国有林伐採問題の実態調査報告
	7. 31	Y. H.	知床ユース発売の「木を切らないで」Ｔシャツはすごい売れ行きを示す
	2. 24	林 野 庁	林野庁長官の諮問機関『林業と自然に関する検討委員会』の第３回会合で、知床国有林の強行伐採について、激しい批判が委員から相次ぐ。委員会の検討結果は10月に提出されるが、林野庁としては、この結果を尊重し伐採計画の取り扱いを決定すると発表。これで、昭和63年度分伐採は事実上凍結される。それ以降の伐採についても計画自体凍結される公算が強くなった
	3. 31	営 林 署	斜里町営林支局廃止。同所を利用して北見営林支局直轄の『斜里森林センター』が発足
	4. 5	林 野 庁	国民や企業からの基金により、５年間で200億円を集め、森林資源について調査研究や国民へのＰＲを行なうという「緑と水の森林基金」を63年度内に作ると発表

* なお、本年表を作成にあたり、斜里町、北海道自然保護連合、斜里森林センター、知床 100 平方米運動関西支部から資料の提供を受けた。記して感謝の意を表わしたい。また、本研究に対して、佛教大学学会より特別研究助成を受けた。